

第4次三浦市総合計画  
(次期基本計画) 素案  
説明資料

平成28年9月

三浦市

## 目 次

1	第4次三浦市総合計画「三浦まちづくりプラン」	1
(1)	第4次三浦市総合計画「三浦まちづくりプラン」の構成について	1
(2)	第4次三浦市総合計画「三浦まちづくりプラン」基本構想が目指す将来像	2
2	次期総合計画策定要領（抜粋）	3
(1)	計画策定の基本方針	3
(2)	基本計画	4
3	人口の将来展望	5
4	市民アンケート結果について（抜粋）	6
(1)	調査の概要	6
(2)	調査結果（抜粋）	6
5	ワークショップ結果について（報告書抜粋）	18

# 1 第4次三浦市総合計画「三浦まちづくりプラン」

## (1) 第4次三浦市総合計画「三浦まちづくりプラン」の構成について

現総合計画「第4次三浦市総合計画三浦まちづくりプラン」は、基本構想・基本計画・実施計画の3層で構成しています。

### 1 基本構想について

2001(平成13)年度から25年後の2025(平成37)年度を展望し、三浦市がめざすべき将来像とそれを達成するための三浦市固有の基本目標及び施策の大綱を明らかにするもので、今回は見直しを行いません。

### 2 基本計画について

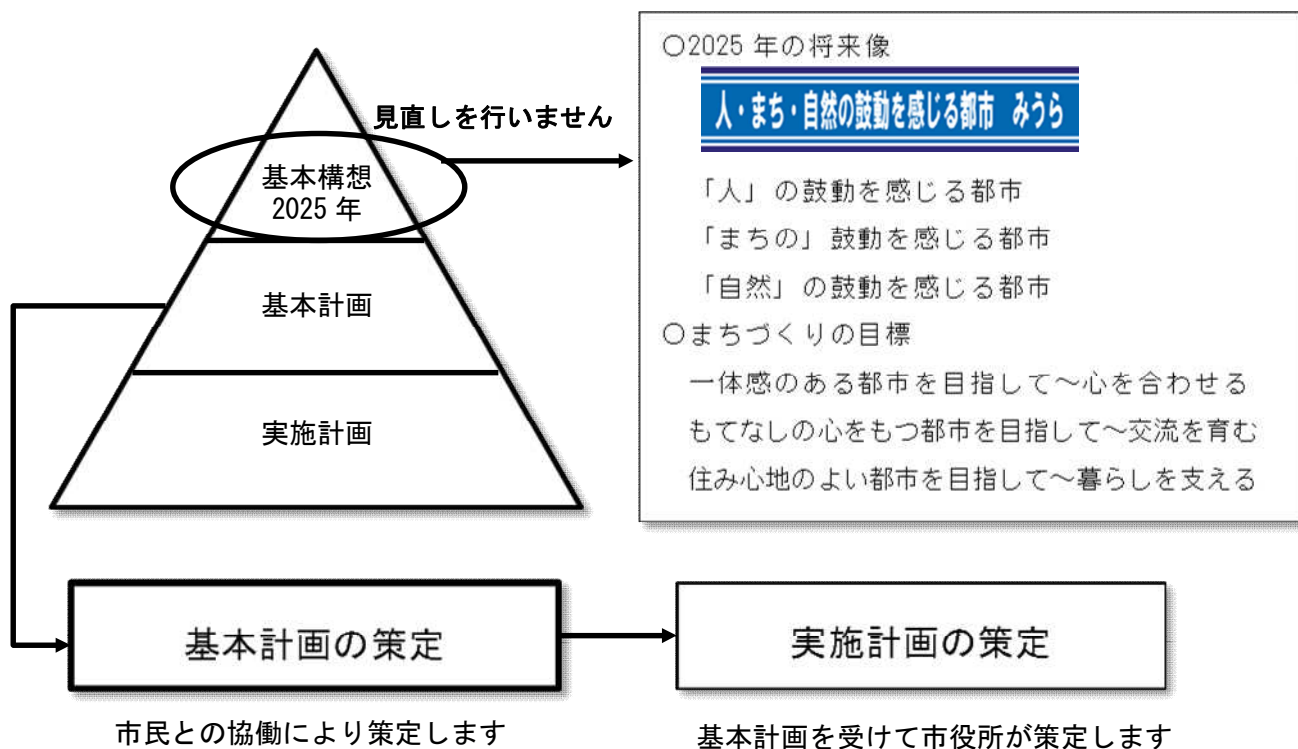
基本構想に掲げる将来像の実現に向けた中期的な計画目標として、政策人口・政策世帯、地域経済、都市構造の姿などを明示し、その実現のための基本的な考え方を示すとともに、基本構想に掲げる基本目標及び施策の大綱に従い、実施すべき施策の方向やその基本的な内容を示すものです。

現基本計画は、10年後(2022(平成34)年度)の将来を見据え2013(平成25)年度～2016(平成28)年度までの4年間を計画期間としており、2015(平成27)年度から2016(平成28)年度の2年間で見直しを行います。

### 3 実施計画について

基本計画に示した施策の方向や基本的内容に従い、財政推計と連動した個別の重要事業を定め、毎年度の予算編成、事業実施の指針となるものです。

現実施計画は、基本計画と同様、2013(平成25)年度～2016(平成28)年度までの4年間を計画期間としており、基本計画策定後、2016(平成28)年度に見直しを行います。



## (2) 第4次三浦市総合計画「三浦まちづくりプラン」基本構想が目指す将来像

第4次三浦市総合計画「三浦まちづくりプラン」では、2025（平成37）年の将来像と、その達成に向けたまちづくりの目標を、次の通り定めています。

### ア 2025（平成37）年の将来像



#### (ア) 「人」の鼓動を感じる都市

三浦市には、様々な人々が様々な生活や仕事を営んでおり、多種多様な知恵と力にあふれています。三浦市にとって一人ひとりの市民の知恵と力は何よりも大切な財産となっています。

三浦市民は、それぞれの持つ知恵と力を惜しみなく発揮し、お互いに同じ都市で暮らし、営む仲間として協力し合うことで、住み心地のよい、生き生きとした生活環境を自ら創り出しています。

#### (イ) 「まち」の鼓動を感じる都市

三浦市民の精力的な取り組みによって、市内のあちらこちらに、人々の元気な声に満ちた、便利でにぎやかなまちができています。

まちはいずれも、それぞれの地域や住民の特色を映し出した、個性的な雰囲気を出しています。そして、市内のまち同士は活発に交流し、人と組織の縁を広げています。

#### (ウ) 「自然」の鼓動を感じる都市

三浦市は、青い海と緑の大地がもたらす自然の恵み、そして、広々とした空間と、美しい景観をもつ都市として首都圏の人々を魅了しています。

三浦市民は、こうした自然の恩恵を人々の活発な交流と都市の成長に欠かせない舞台装置として活かすことで、自然を満喫できる回遊空間とやすらぎのある住まいを創り出しています。

### イ 将来像の達成に向けたまちづくりの目標

#### (ア) 一体感のある都市をめざして～心を合わせる

三浦市内に住み、働く一人ひとり、それぞれの地域と地域がお互いの個性や価値観を尊重し合いながら、同じ三浦市民としてまちづくりの目標を共有し、その目標に向かって共に支え合い、その成果を共に享受する一体感のある都市をめざします。

#### (イ) もてなしの心をもつ都市をめざして～交流を育む

通勤や通学・買い物・観光・流通・商談や会議・企業進出・静養・リゾート居住など様々なかたちで市外から訪れる人々や組織、入ってくるモノ、情報を心から歓迎し、交流を深めることで市民自らも豊かさを享受できるもてなしの心をもつ都市をめざします。

#### (ウ) 住み心地のよい都市をめざして～暮らしを支える

市内で働いたり学んだりしている人も、市外に働きに出たり通学したりしている人も、また、一旦は市外に転出した人も、「このままずっと」あるいは「いつかはきっと」、三浦市で暮らしたい、三浦市で子どもを育てたい、三浦市で余生を過ごしたい、三浦市で三世代がともに暮らしたい、と思えるような住み心地のよい都市をめざします。

## 2 次期総合計画策定要領（抜粋）

### （1）計画策定の基本方針

#### ア 総合計画における位置付け

第4次三浦市総合計画三浦みらいプラン21において、基本計画と実施計画は、計画期間を統一することで合わせて一体の計画とし、基本構想に掲げる将来像と基本目標及び施策の大綱に従い、実施すべき施策の方向やその基本的な内容を示す基本計画と、基本計画に示す施策の方向や基本的内容に従い、財政計画と連動した個別の重要事業の指針となる実施計画を併せ持つ計画と位置付け、第4次三浦市総合計画三浦まちづくりプランにおいてもこの考え方を踏襲した。

なお、基本計画の計画期間については、次の2つの認識により、みらいプラン21策定時に従来の8年間の計画期間を短縮し、実施計画の期間と統一した4年間としていた。

（ア）社会経済情勢の変化に対応した見直しが必要であり、常にリアリティのある計画とすべきである。

（イ）基本計画で定める施策と実施計画で定める事業の両者を同時に行政評価の対象とすべきであることから両者の計画期間を統一すべきである。

次期基本計画については、次の2つの視点から、計画期間を現基本構想の終期である平成37年度までの9年間とする。

（ウ）行政評価の効果を高めるために、地方版総合戦略と対象及び形式を一致させ、基本計画に重点施策を設定した上で、実施計画に重点施策の数値目標を設定することで、行政評価の対象を短期的計画とした。

（エ）短期的な目標を持つ実施計画と、中長期的な将来像を描くという基本計画を分離することで、それぞれの役割を明確にする。

表1：まちづくりプランと次期計画の比較

	まちづくりプラン	次期計画
基本構想の目標年次	平成37年度	平成37年度
基本計画の目標年次	平成34年度	平成37年度
基本計画の計画期間	平成25年度～平成28年度	平成29年度～平成37年度
基本計画の構成	目標、施策、展開方針（評価指標）	目標、施策、展開方針（評価指標） 重点施策の設定
実施計画の計画期間	平成25年度～平成28年度	平成29年度～平成32年度
実施計画の構成	展開方針（評価指標）の下に事業を設定	展開方針（評価指標）の下に事業を設定 重点施策の展開方針（評価指標）の下に数値目標及び事業を設定（地方版総合戦略と形式を一致）

#### イ 地方人口ビジョン及び地方版総合戦略との関係性

地方公共団体における人口の現状と将来の展望を提示する「地方人口ビジョン」及び地域の実情に応じた今後5か年の施策の方向を提示する「地方版総合戦略」を平成27年度中に策定することを国から求められていることから、「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」の策定作業を先行させるが、次期基本計画・実施計画の策定作業との効率的な連携を図るとともに、調査分析作業等の成果の活用等を通し、計画相互の整合性を図るものとする。

#### ウ 計画期間

（ア）基本計画は、平成29年度から平成37年度までの9年間とする。

（イ）実施計画は、平成29年度から平成32年度までの4年間とする。

#### エ 市民参加

住民、産業界、関係行政機関、教育機関、金融機関、労働団体及びメディア（産官学金労言）等

で構成する総合計画審議会での審議をはじめ、市民アンケート、ワークショップ及びパブリックコメントなどにより、積極的な市民参加を促すものとする。

オ 庁内での検討組織

総合計画策定に関する庁内での検討を進めるため、関係する部課の職員で構成するプロジェクトチームを設置する。

(2) 基本計画

ア 位置付け

基本構想に掲げる将来像の実現に向けた中期的な計画目標として、人口・世帯、地域経済、都市構造の姿を明示し、その実現のための基本的な考え方を示す。

イ 計画の構成

(ア) まちの将来像

人口・世帯、地域経済、都市構造に関する10年後の目標を定める。

なお、人口については、先行して定める地方人口ビジョンの平成37年の数値を反映する。

(イ) 施策

目標（将来像）実現のために9年間で展開する施策を定める。

(ウ) 展開方針

施策展開の具体的な方針を定める。

なお、先行して定める地方版総合戦略の「講ずべき施策に関する基本的方向」を反映する。

(エ) 施策の評価指標

施策の成果を評価する展開方針ごとの指標を定める。極力、定量的な視点とする。

(オ) 重点施策

戦略的なまちづくりをめざし、特に重点的に進めるべき施策を設定する。

ウ 施策展開方針の策定方法

将来像を見据えてその課題を整理するトップダウン型のアプローチに加え、現基本計画策定後の変化による課題を整理するボトムアップ型のアプローチにより、現行施策及び展開方針を検証し、必要な見直しを図る。

エ 進行管理

計画期間内における進行管理は、行政評価システムによる施策評価によって行うものとし、原則として施策の方向と基本的内容の見直し（改定）は行わない。

### 3 人口の将来展望

「2 次期総合計画策定要領（抜粋）」にも記載したように、次期基本計画の人口については、先に策定した「三浦市人口ビジョン」の平成37年の数値を反映することとしました。

なお、人口ビジョンでは平成72年までの人口の将来展望をしています。

人口の将来展望における仮定は、以下のとおりです。

#### (1) 自然増減（出生）に関する仮定

平成22（2010）年時点の三浦市と国の合計特殊出生率の差（約0.26）を踏まえ、その差は埋まらずに続いていくと仮定し、平成42（2030）年に1.54（同1.80）、平成52（2040）年に1.81（同2.07）、平成62（2050）年に2.07（＝人口置換水準）になることを目標とします。

【表1 将来展望の仮定値と国の長期ビジョンの仮定値】

	H22 (2010)	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)	H67 (2055)	H72 (2060)
三浦市	1.13	1.13	1.27	1.40	1.54	1.68	1.81	1.95	2.07	2.07	2.07
国	1.39				1.80		2.07				
差	0.26				0.26		0.26				

※ 平成22（2010）年は、国算出の実数。

#### (2) 社会増減（移動）に関する仮定

国の長期ビジョン「図3. 地域別の高齢化率の長期的な見通し」における仮定を参考にし、平成52（2040）年までに移動が均衡する（移動率がゼロになる）と仮定します。

なお、平成52（2040）年までの間の移動率は、直線的に（毎年同じペースで）均衡（ゼロ）に向かうと仮定します。

#### (3) 将来展望

自然に推移した場合の平成37（2025）年の人口は40,900人ですが、三浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年10月策定）の取組や次期総合計画第Ⅲ章に示す重点施策の取組を進めることにより、総人口41,200人を目指します。

#### 4 市民アンケート結果について（抜粋）

##### （1）調査の概要

###### ア 調査の目的

市民生活及び市政に対する意見等を把握し、三浦市人口ビジョン、三浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び次期総合計画策定に活用するため、市民アンケートを実施しました。

###### イ 調査対象

住民基本台帳に記載のある者のうち16歳以上の男女無作為抽出2,000人

###### ウ 調査方法

郵送によるアンケート形式

###### エ 調査期間

平成27年7月8日～7月22日

###### オ 回収数

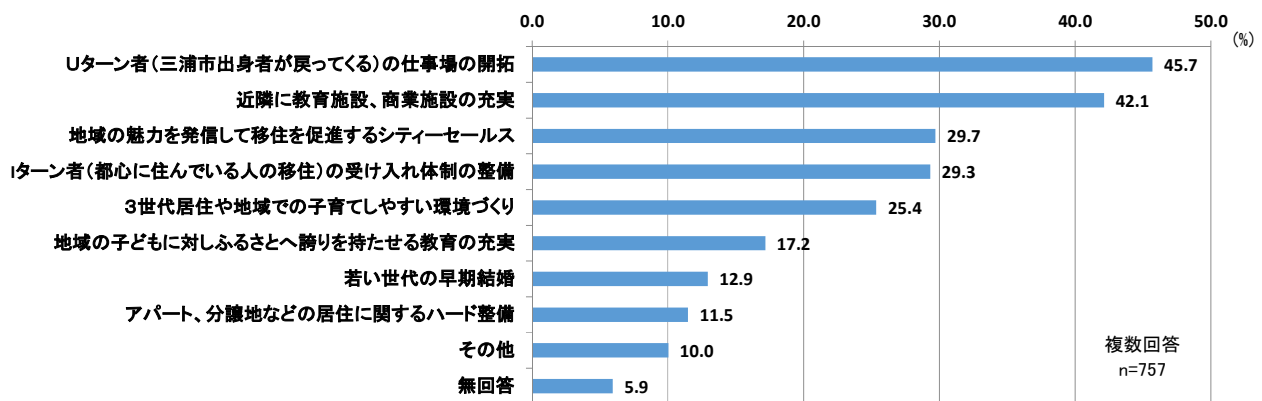
757件（回収率37.9%）

##### （2）調査結果（抜粋）

###### ア あなたのお住いの周辺環境と今後の定住について

（ア）あなたの地区で人口を増やすために必要な取組は何だとおもいますか。（〇はいくつでも）

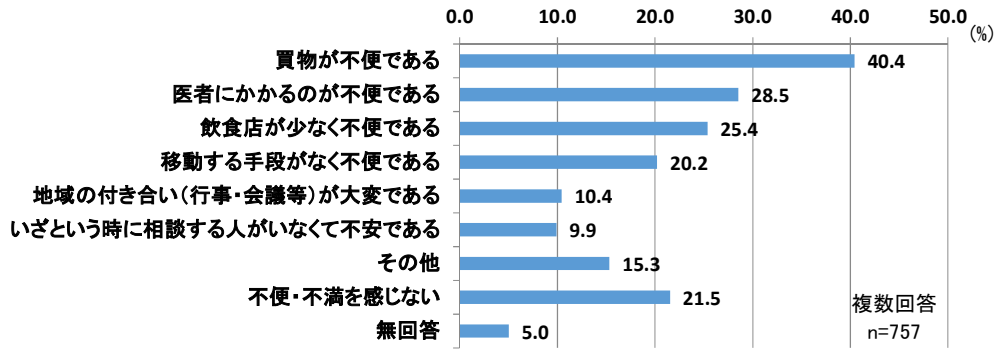
- ・「Uターン者（三浦市出身者が戻ってくる）の仕事場の開拓」が最も多く45.7%、次いで「近隣に教育施設、商業施設の充実」が42.1%で、ともに4割以上を占める。以下「地域の魅力を発信して移住を促進するシティーセールス」（29.7%）、「Iターン者（都心に住んでいる人の移住）の受け入れ体制の整備」（29.3%）、「3世代居住や地域での子育てしやすい環境づくり」（25.4%）と続き、これらは2割以上の方が挙げている。
- ・「その他」として83件の具体的な記述があり、計108件の意見が挙げられた。最も多かったのは「交通手段の整備」の12件、次いで「雇用の確保」が9件などとなっている。



（イ）あなたは生活する上で不便・不満を感じることはありますか。（〇はいくつでも）

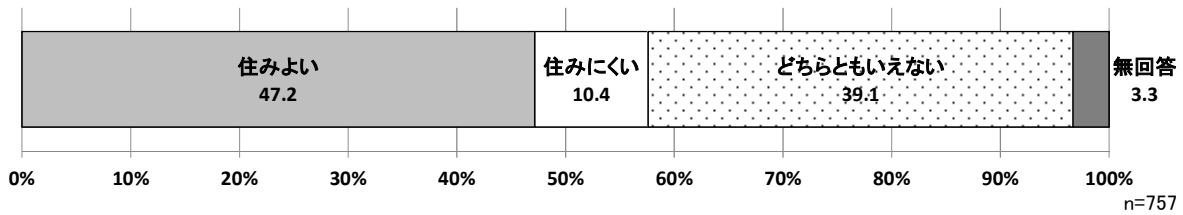
- ・「買物が不便である」が最も多く40.4%で、4割強を占める。次いで「医者にかかるのが不便である」（28.5%）、「飲食店が少なく不便である」（25.4%）を3割近くが占める一方で「不便・不満を感じない」も21.5%と、2割以上になっている。
- ・「その他」として121件の具体的な記述があり、計131件の意見が出された。多種多様な意見が出された中、最も多かったのは「交通の便が悪い」の29件で、以下「商業が衰退している」（10件）、「渋滞が多い」（9件）なども多くなっている。





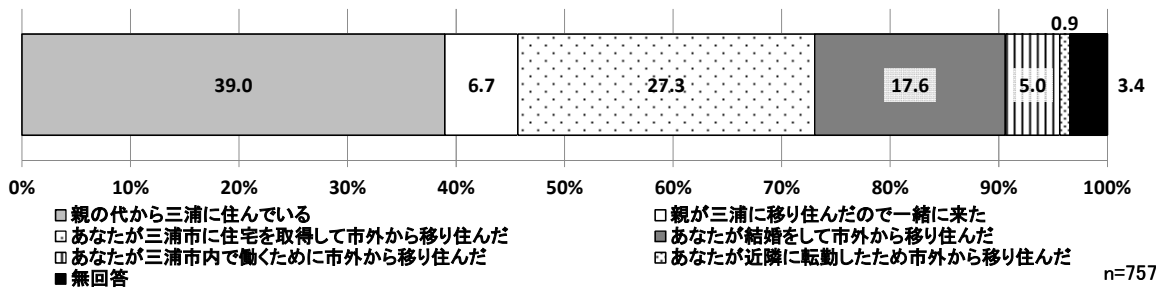
(ウ) あなたにとって三浦市は住みよいですか。(○は1つ)

- ・「住みよい」が47.2%と、全体の半数弱を占めている。次いで「どちらともいえない」が39.1%で4割弱、「住みにくい」は10.4%で1割程度である。



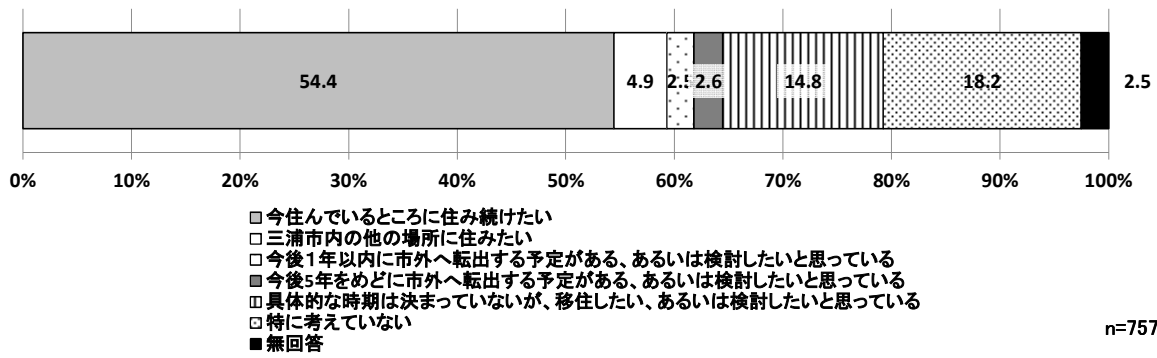
(エ) あなたが三浦市に住むことになったきっかけは次のうちどれですか？(○は1つ)

- ・「親の代から三浦に住んでいる」が39.0%で最も多く、4割弱となっている。次いで「あなたが三浦市に住宅を取得して市外から移り住んだ」が27.3%で、全体の4分の1強である。以下「あなたが結婚をして市外から移り住んだ」(17.6%)、「親が三浦に移り住んだので一緒に来た」(6.7%)、「あなたが三浦市内で働くために市外から移り住んだ」(5.0%)、「あなたが近隣に転勤したため市外から移り住んだ」(0.9%)となっている。



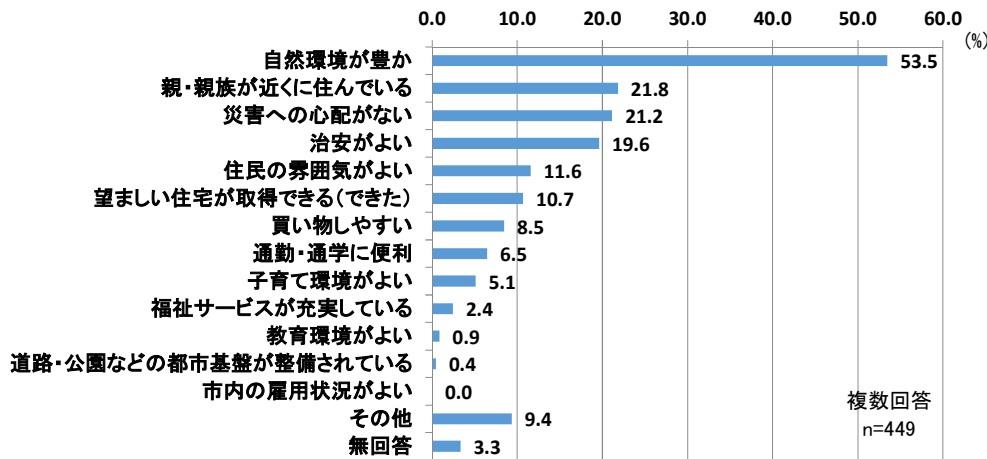
(オ) 今後、三浦市に住み続けたいですか。(○は1つ)

- ・「今住んでいるところに住み続けたい」が54.4%で最も多く、過半数を占めている。次に「特に考えていない」が18.2%で、2割近くを占めている。次いで「具体的な時期は決まっていないが、移住したい、あるいは検討したいと思っている」が14.8%である。以下「三浦市内の他の場所に住みたい」(4.9%)、「今後5年をめぐり市外へ転出する予定がある、あるいは検討したいと思っている」(2.6%)、「今後1年以内に市外へ転出する予定がある、あるいは検討したいと思っている」(2.5%)と続く。
- ・「今住んでいるところに住み続けたい」「三浦市内の他の場所に住みたい」を合わせると59.3%で、約6割の人が三浦市への継続居住を望んでいる。



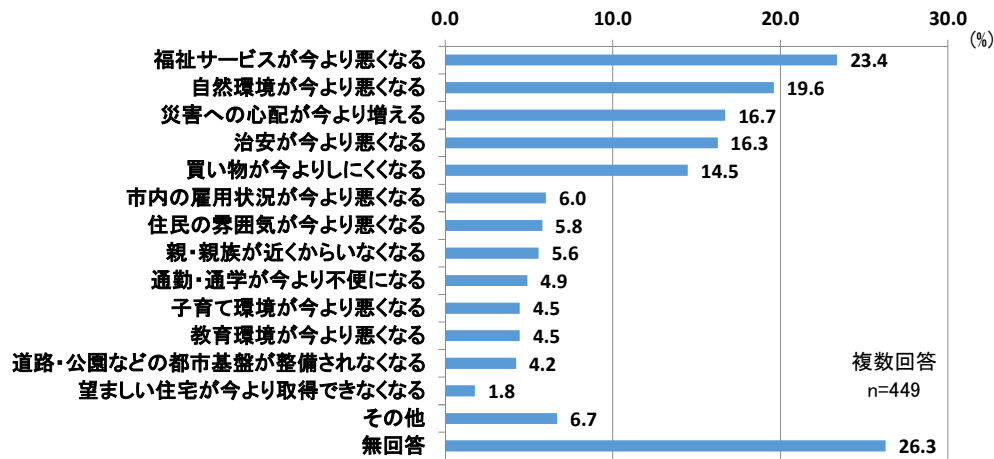
(カ) 三浦市に住み続けたい理由はなんですか。(〇は2つまで)

- ・「自然環境が豊か」が最も多く 53.5%で、飛びぬけて多くなっている。次いで「親・親族が近くに住んでいる」が 21.8%、「災害への心配がない」が 21.2%で、これらを2割強の人が挙げている。以下、「治安がよい」(19.6%)、「住民の雰囲気が良い」(11.6%)、「望ましい住宅が取得できる(できた)」(10.7%)と続き、住まいを取り巻く環境の良さに関する回答が多くなっている。



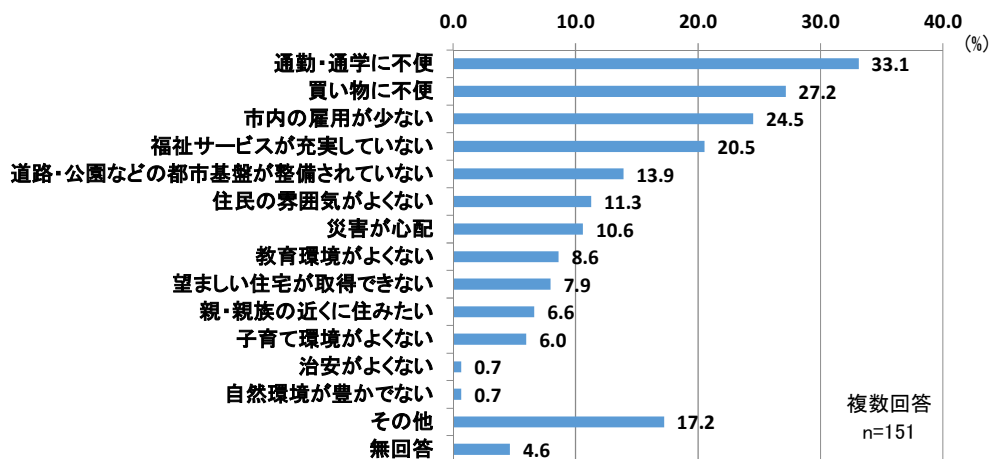
(キ) 三浦市に住み続けたいという気持ちが変わるとしたら、その理由は何ですか。(〇は2つまで)

- ・「福祉サービスが今より悪くなる」が 23.4%で最も多く、次に「自然環境が今より悪くなる」が 19.6%で、これらを2割前後の人が挙げている。以下「災害への心配が今より増える」(16.7%)、「治安が今より悪くなる」(16.3%)、「買い物が今よりしにくくなる」(14.5%)などと続く。



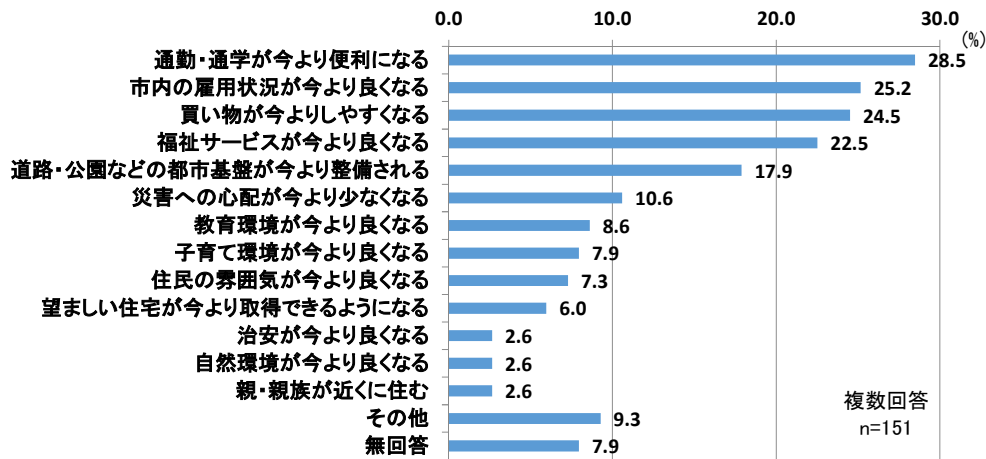
(ク) 三浦市から転出したい理由はなんですか。(〇は2つまで)

- ・「通勤・通学に不便」が 33.1%で最も多く、全体の3割以上の人々が挙げている。次いで「買い物に不便」が 27.2%で、利便性に関する回答が上位2位となっている。以下「市内の雇用が少ない」(24.5%)、「福祉サービスが充実していない」(20.5%)、「道路・公園などの都市基盤が整備されていない」(13.9%)、「住民の雰囲気がよくない」(11.3%)、「災害が心配」(10.6%)などとなっている。



(ケ) 三浦市から転出したいという気持ちが変わるとしたら、その理由は何ですか。(〇は2つまで)

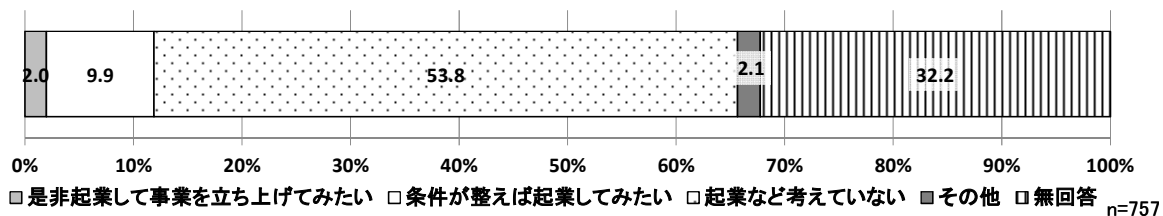
- ・「通勤・通学が今より便利になる」が 28.5%、「市内の雇用状況が今より良くなる」が 25.2%、「買い物が今よりしやすくなる」が 24.5%で、上位3つのうち2つが利便性に関する回答となっている。以下「福祉サービスが今より良くなる」(22.5%)、「道路・公園などの都市基盤が今より整備される」(17.9%)、「災害への心配が今より少なくなる」(10.6%)が続く。



## イ 「仕事」について

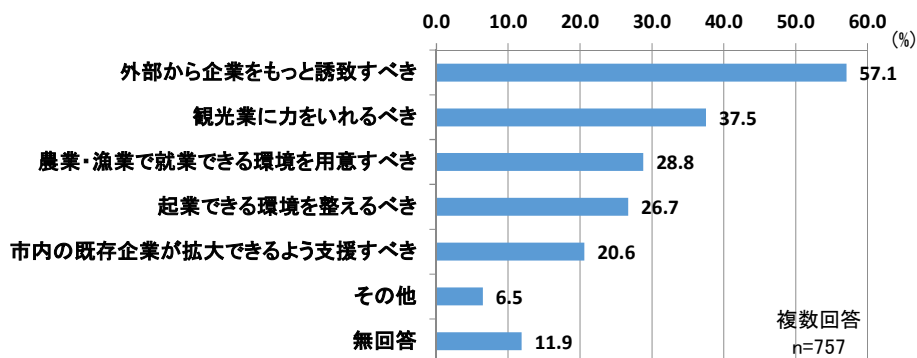
(ア) あなた自身が事業を立ち上げる「起業」についての意識をお伺いします。(〇は1つ)

- ・「起業など考えていない」が53.8%で、過半数を占める。「条件を整えば起業してみたい」は9.9%、「是非起業して事業を立ち上げてみたい」は2.0%で、これらを合わせるといずれ起業してみたいと考えているのは1割強となっている。



(イ) 三浦市内の仕事の機会を充実させるためにどのような方策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- ・「外部から企業をもっと誘致すべき」が最も多く57.1%で、6割近くの人が挙げている。次いで「観光業に力をいれるべき」が37.5%である。以下「農業・漁業で就業できる環境を用意すべき」(28.8%)、「起業できる環境を整えるべき」(26.7%)、「市内の既存企業が拡大できるよう支援すべき」(20.6%)についても、いずれも2割以上の人を選択している。
- ・「その他」として49件の記述があり、計54件の意見が挙げられた。意見内容は多岐にわたったが、最も多かったのは「農業・漁業の六次産業化」と「遊休地の活用」でともに6件、次いで「交通アクセスの改善」「商業の振興」とともに4件となっている。

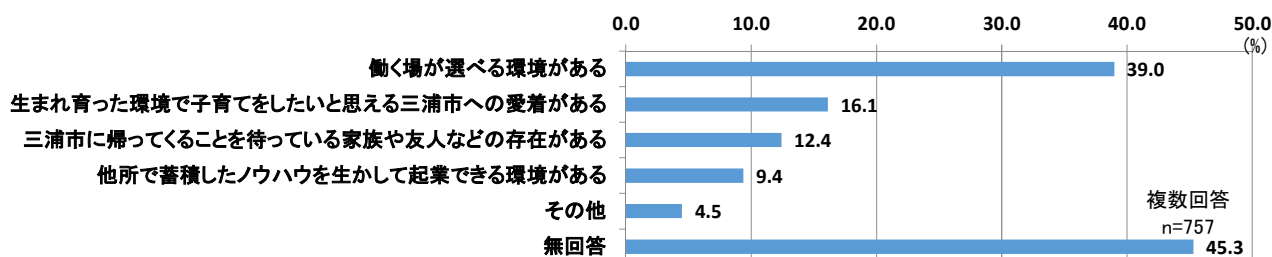


## ウ 「Uターン」や「Iターン」について

(ア) 市外に出ている兄弟や子ども、孫が戻ってくる（Uターン）ために必要なこととは何ですか。

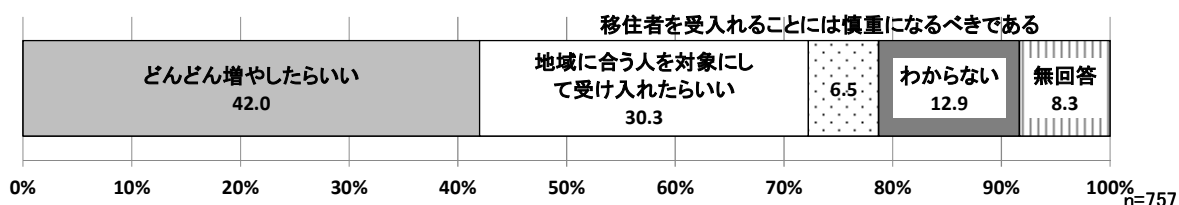
(○はいくつでも)

- ・「働く場が選べる環境がある」が最も多く 39.0%で、4割近くの人が挙げており、飛びぬけて多くなっている。以下「生まれ育った環境で子育てをしたいと思える三浦市への愛着がある」(16.1%)、「三浦市に帰ってくることを待っている家族や友人などの存在がある」(12.4%)、「他所で蓄積したノウハウを生かして起業できる環境がある」(9.4%)、「その他」(4.5%)と続く。
- ・「その他」として25件の記述があり、計29件の意見が挙げられた。最も多かったのは「交通手段の充実」の7件、次いで「転出が決まっている、帰らない」が5件となっている。



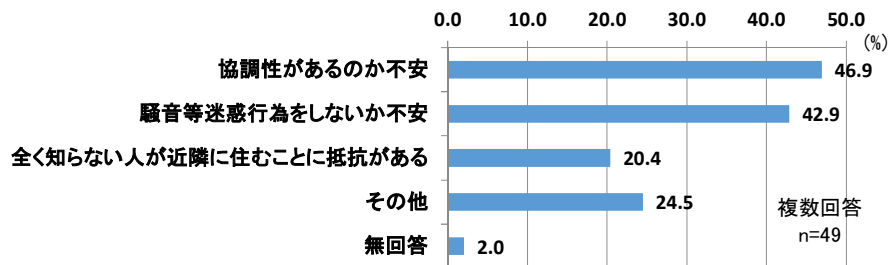
(イ) 三浦市を活性化するためには、外部からの移住者（Iターン）を増やすという考え方がありません。あなたはこれについてどう思いますか。(○は1つ)

- ・「どんどん増やしたらいい」が42.0%で最も多く、4割を超えている。次いで「地域に合う人を対象にして受け入れたらいい」が30.3%で、これらを合わせると7割強の人が条件次第では移住者の増加に肯定的な傾向である。以下「わからない」が12.9%、「移住者を受入れることには慎重になるべきである」は6.5%となっている。



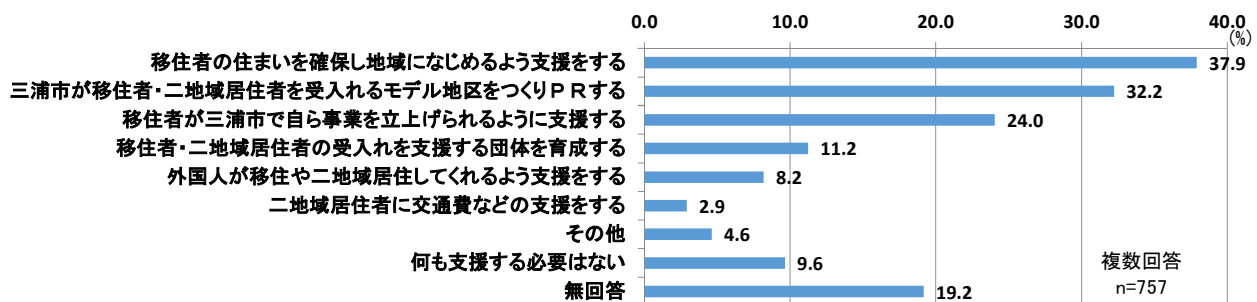
(ウ) 移住者（Iターン）を受け入れられない理由として何があるのかお答えください。(○はいくつでも)

- ・「協調性があるのか不安」が46.9%、「騒音等迷惑行為をしないか不安」が42.9%で、ともに4割以上の人が挙げている。以下「その他」(24.5%)、「全く知らない人が近隣に住むことに抵抗がある」(20.4%)と続く。
- ・「その他」として17件の記述があり、計18件の意見が挙げられた。目立ったものとしては「地域の習慣に理解がない」「地元民の移住者への理解不足」「ちゃんと税負担ができるか不明」「外国人移住による治安の悪化」「税金を使って援助するのはどうか」がいずれも2件ずつとなっている。



(エ) 三浦市が移住者（Iターン）や二地域居住者（都心と三浦市の両方に住む人）を増やそうとした場合、どのような支援策があったらよいと思いますか。（〇はいくつでも）

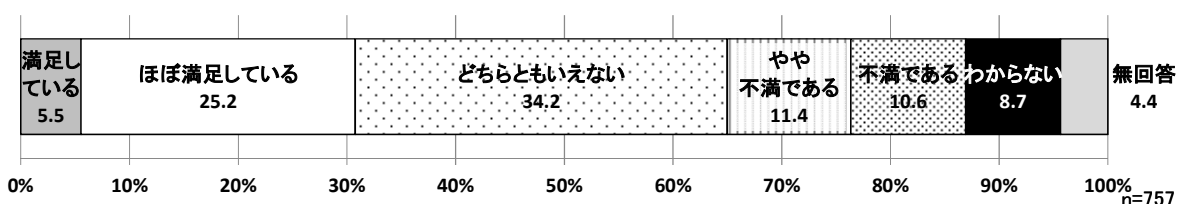
- ・「移住者の住まいを確保し地域になじめるよう支援をする」が37.9%、次いで「三浦市が移住者・二地域居住者を受入れるモデル地区をつくりPRする」が32.2%で、これらは3割以上の人が挙げている。以下「移住者が三浦市で自ら事業を立上げられるように支援する」（24.0%）、「移住者・二地域居住者の受入れを支援する団体を育成する」（11.2%）などと続く一方で、「何も支援する必要はない」も9.6%と、1割近くの人が挙げている。
- ・「その他」として35件の記述があり、計38件の意見が挙げられた。意見内容は多岐にわたったが、目立ったのは「税制上の優遇、減税」と「自然を活かした魅力ある都市の創生」でともに4件、次いで「移住者向けの住宅」「交通網の整備」「支援しなくてよい」がともに3件となっている。



## エ 三浦市の行政サービスや必要な施策について

(ア) 日々の暮らしにかかわる市役所のサービスに対する満足度をお答えください。（〇は1つ）

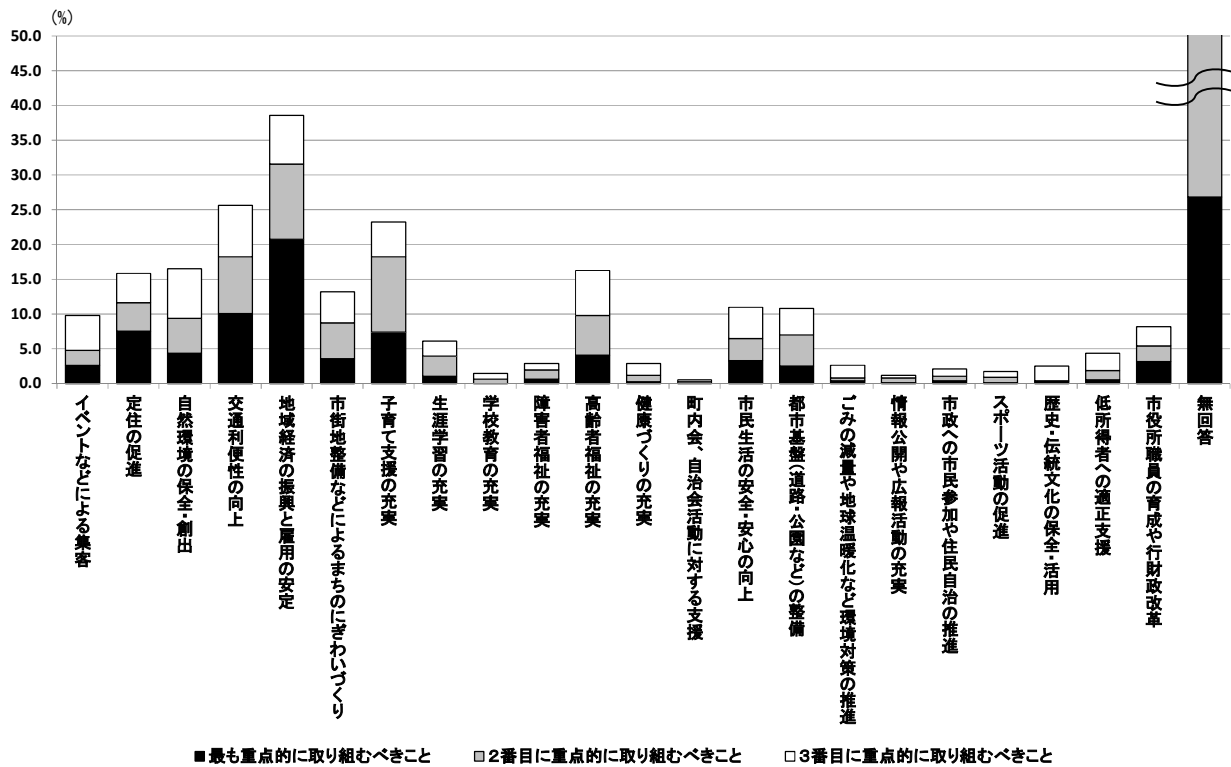
- ・「どちらともいえない」が34.2%で最も多く、全体の3分の1強となっている。次いで「ほぼ満足している」が25.2%で全体の4分の1である。以下「やや不満である」（11.4%）、「不満である」（10.6%）、「わからない」（8.7%）、「満足している」（5.5%）と続く。
- ・「満足している」「ほぼ満足している」を合わせると30.7%で、約3割の人は満足している傾向にある。「不満である」「やや不満である」を合わせると21.9%で、不満を感じているのは2割強である。



(イ) 10年後、20年後の将来、三浦市が着実に成長できる都市であるためには、財源に限りがある中で、今後どのような施策に重点的に取り組むべきだと思いますか。

- ・最も重点的に取り組むものとして最も多かったのは「地域経済の振興と雇用の安定」の20.7%、次いで「交通利便性の向上」(10.0%)、以下「定住の促進」(7.5%)、「子育て支援の充実」(7.4%)、「自然環境の保全・創出」(4.4%)となっている。
- ・二番目に重点的に取り組むものとして最も多かったのは「地域経済の振興と雇用の安定」「子育て支援の充実」が10.8%で同率、以下「交通利便性の向上」(8.2%)、「高齢者福祉の充実」(5.7%)、「市街地整備などによるまちのにぎわいづくり」(5.2%)となっている。
- ・三番目に重点的に取り組むものとして最も多かったのは「交通利便性の向上」が7.4%、次いで「自然環境の保全・創出」(7.1%)、以下「地域経済の振興と雇用の安定」(7.0%)、「高齢者福祉の充実」(6.5%)、「子育て支援の充実」(5.0%)となっている。

	全体	イベントなどによる集客	定住の促進	自然環境の保全・創出	交通利便性の向上	地域経済の振興と雇用の安定	市街地整備などによるまちのにぎわいづくり	子育て支援の充実	生涯学習の充実	学校教育の充実	障害者福祉の充実	高齢者福祉の充実	健康づくりの充実	町内会、自治会活動に対する支援	向上、自治会活動に対する支援	市民生活の安全・安心の向上	都市基盤(道路・公園など)の整備	ごみの減量や地球温暖化など環境対策の推進	情報公開や広報活動の充実	市政への市民参加や住民自治の推進	スポーツ活動の促進	活用	歴史・伝統文化の保全・活用	低所得者への適正支援	市政改革	市役所職員の育成や行財政改革	無回答
最も重点的に取り組むべき	100.0	2.6	7.5	4.4	10.0	20.7	3.6	7.4	1.1	0.0	0.7	4.1	0.3	0.0	3.3	2.5	0.4	0.1	0.4	0.1	0.3	0.5	3.2	26.8			
2番目に重点的に取り組むべき	100.0	2.1	4.1	5.0	8.2	10.8	5.2	10.8	2.9	0.7	1.3	5.7	0.9	0.3	3.2	4.5	0.4	0.7	0.7	0.8	0.1	1.3	2.2	28.1			
3番目に重点的に取り組むべき	100.0	5.0	4.2	7.1	7.4	7.0	4.5	5.0	2.1	0.8	0.9	6.5	1.7	0.3	4.5	3.8	1.8	0.4	1.1	0.8	2.1	2.5	2.8	27.6			

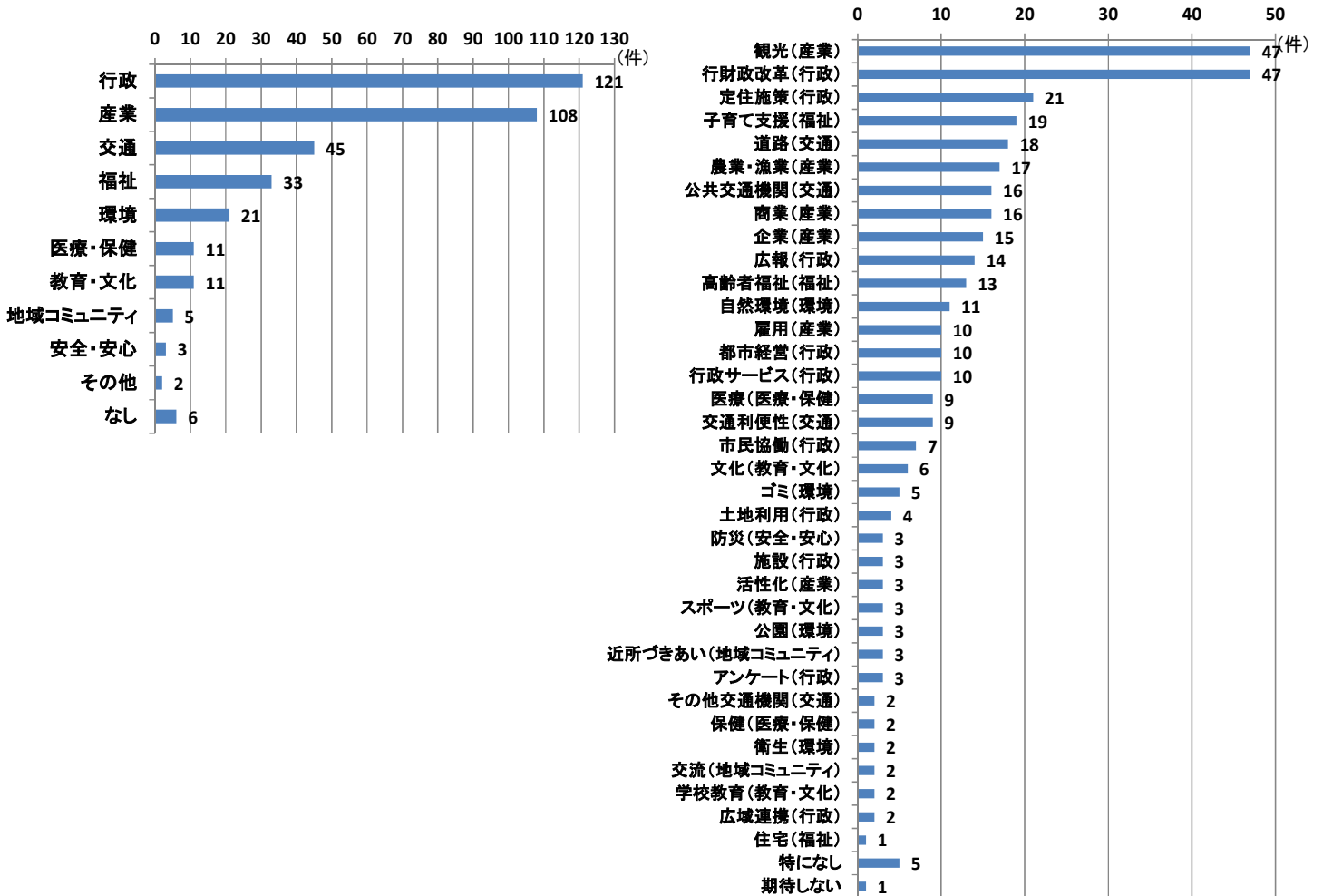


(ウ) 三浦市が今後も活力あるまちであり続けるために、ご意見やご提案をご記入ください。

- ・三浦市についての意見や提案として、248件の具体的な記述があり、計366件の意見が出された。
- ・大分類の内訳としては、「行政」121件、「産業」108件、「交通」45件、「福祉」33件、「環境」21件、「医療・保健」11件、「教育・文化」11件、「地域コミュニティ」5件、「安全・安心」3件、「その他」2件、「なし」6件となっており、行政に対する意見が最

も多かった。

- ・中分類を見ると、「産業」の「観光」、「行政」の「行財政改革」がともに47件で最も多かった。以下、同じく「行政」の「定住施策」(21件)、「福祉」の「子育て支援」(19件)、「交通」の「道路」(18件)などとなっている。
- ・さらに個別に小分類の内容を見ると、最も多く出されていたのは「企業誘致」13件(「産業-企業」)、「自然、海を活かした観光」11件(「産業-観光」)、「若者の定住促進」10件(「行政-定住施策」)などとなっている。

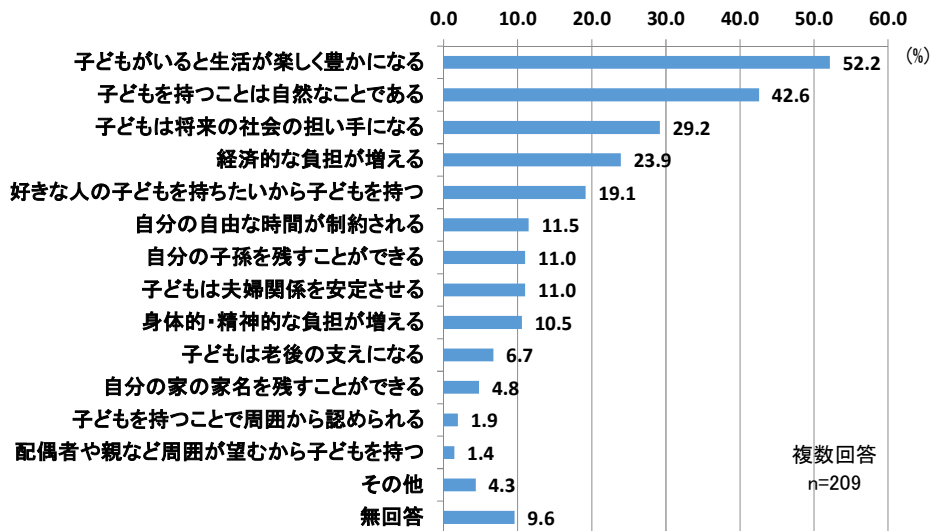


### オ 「出産、子育て」について (10~40代男女)

(ア) 子どもを持つことについての考え方を教えてください。あなたの考えに近いものを選んでください。(○は3つまで)

- ・「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が最も多く52.2%の人が挙げており、次いで「子どもを持つことは自然なことである」が42.6%で続く。以下「子どもは将来の社会の担い手になる」(29.2%)、「経済的な負担が増える」(23.9%)、「好きな人の子どもを持ちたいから子どもを持つ」(19.1%)、「自分の自由な時間が制約される」(11.5%)、「自分の子孫を残すことができる」(11.0%)、「子どもは夫婦関係を安定させる」(11.0%)、「身体的・精神的な負担が増える」(10.5%)などとなっている。

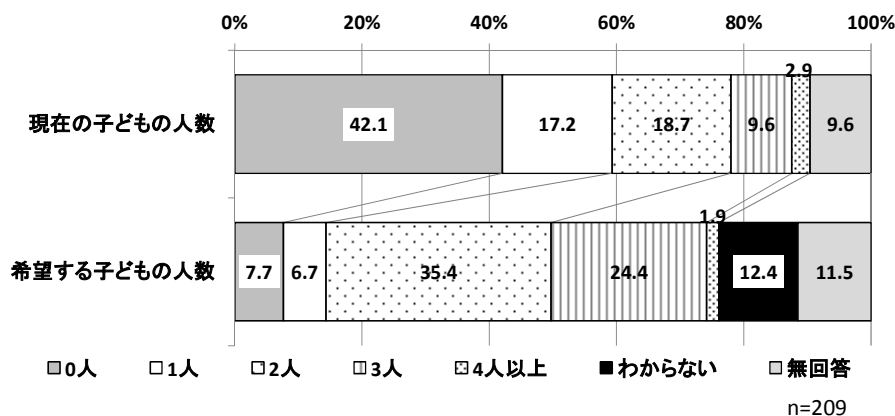




(イ) 現在の子ども的人数をお知らせください。(○は1つ)

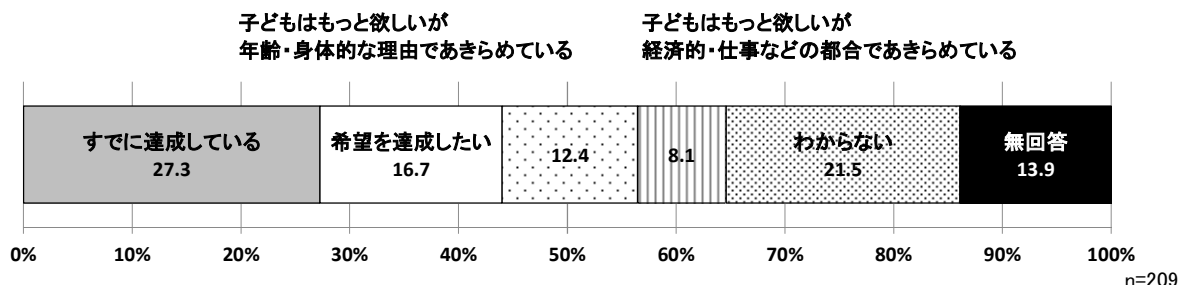
(ウ) 希望する子ども的人数は何人ですか。(○は1つ)

- ・現在の子ども的人数は「0人」が最も多く 42.1%で全体の4割強を占めている。続いて、「2人」(18.7%)、「1人」(17.2%)がほぼ並ぶ。以下「3人」(9.6%)、「4人以上」(9.6%)となっている。
- ・希望する子ども的人数は、「2人」が最も多く 35.4%で、全体の3分の1強が希望している。次いで「3人」が 24.4%で、全体の4分の1弱である。また、「わからない」が 12.4%となっている。以下「0人」(7.7%)、「1人」(6.7%)、「4人以上」(1.9%)と続く。「2人」と「3人」では、希望の数値が現在の数値を大きく上回っている。



(エ) 希望する子ども的人数についての見通しをおたずねします。(○は1つ)

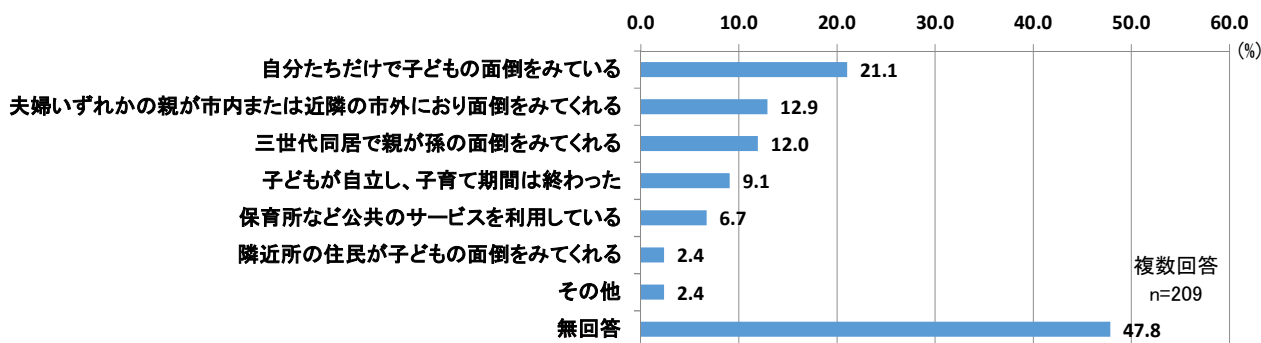
- ・「すでに達成している」が最も多く 27.3%で、全体の4分の1強となっている。次いで「わからない」が 21.5%である。以下「希望を達成したい」(16.7%)、「子どもはもっと欲しいが年齢・身体的な理由であきらめている」(12.4%)、「子どもはもっと欲しいが経済的・仕事などの都合であきらめている」(8.1%)となっており、何らかの理由で希望の子ども的人数をあきらめている人が約2割存在している。



(オ) 子どものいる方におたずねします。現在のあなたの子育て環境についてお知らせください。

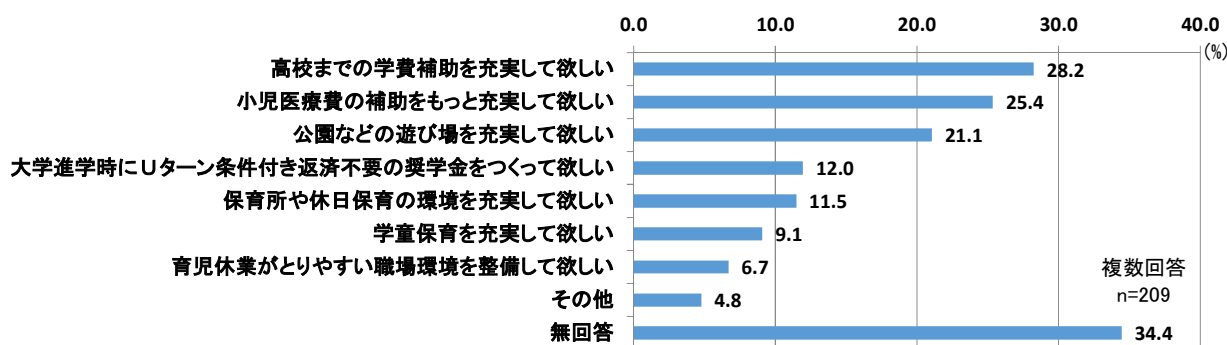
(○はいくつでも)

- ・「自分たちだけで子どもの面倒をみている」が21.1%で最も多く、約2割を占めている。次いで「夫婦いずれかの親が市内または近隣の市外におり面倒をみしてくれる」が12.9%、「三世同居で親が孫の面倒をみしてくれる」が12.0%でほぼ並ぶ。以下「子どもが自立し、子育て期間は終わった」(9.1%)、「保育所など公共のサービスを利用している」(6.7%)、「隣近所の住民が子どもの面倒をみしてくれる」(2.4%)、「その他」(2.4%)となっている。



(カ) 子育てについて三浦市に期待することをお答えください。(○は2つまで)

- ・「高校までの学費補助を充実して欲しい」が最も多く28.2%で3割近くを占めており、これに、「小児医療費の補助をもっと充実して欲しい」が25.4%で続く。次いで「公園などの遊び場を充実して欲しい」が21.1%である。以下「大学進学時にUターン条件付き返済不要の奨学金をつかって欲しい」(12.0%)、「保育所や休日保育の環境を充実して欲しい」(11.5%)などとなっている。

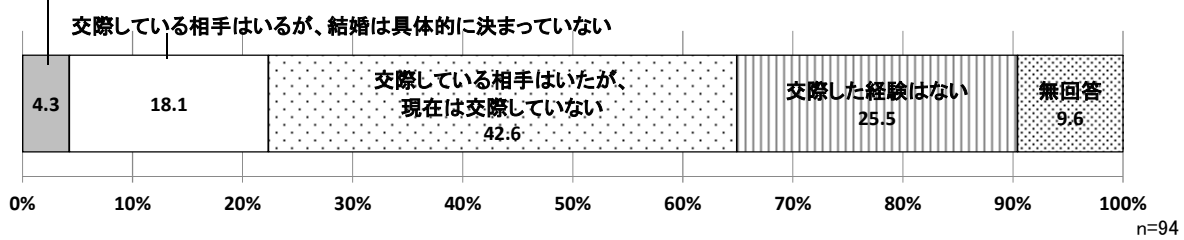


カ 「結婚」について

(ア) 独身（離婚された方を含む）の方におたずねします。あなたには交際している人（恋人）はいますか。（○は1つ）

- ・「交際している相手はいたが、現在は交際していない」が42.6%で、4割を超えている。次いで「交際した経験はない」が25.5%で、全体の約4分の1で、これらを合わせると全体の7割近くが現在交際相手はいないとしている。以下「交際している相手はいるが、結婚は具体的に決まっていない」（18.1%）、「結婚が決まっている、または婚約中」（4.3%）となっている。

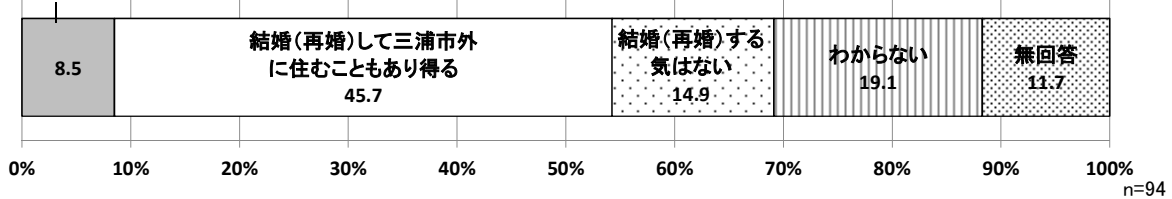
結婚が決まっている、または婚約中



(イ) 独身（離婚された方を含む）の方におたずねします。あなたの結婚についての考え方はどれに該当しますか。（○は1つ）

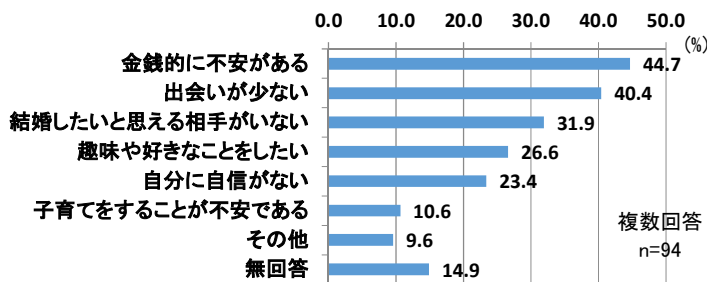
- ・「結婚（再婚）して三浦市外に住むこともあり得る」が45.7%で、半数近くに達している。次いで「わからない」が19.1%で2割弱である。以下「結婚（再婚）する気はない」が14.9%、「結婚（再婚）して三浦市に住み続けたい」が8.5%で、結婚後も三浦市に住み続けたい意思がはっきりしている人は1割弱である。

結婚(再婚)して三浦市に住み続けたい



(ウ) 結婚するにあたって何か問題や不安に思うことがありますか。（○はいくつでも）

- ・「金銭的に不安がある」が最も多く44.7%、次いで「出会いが少ない」が40.4%で、これらは4割以上の方が挙げている。以下「結婚したいと思える相手がいない」（31.9%）、「趣味や好きなことをしたい」（26.6%）、「自分に自信がない」（23.4%）、「子育てをすることが不安である」（10.6%）、「その他」（9.6%）と続く。



5 ワークショップ結果について（報告書抜粋）

次期基本計画策定にあたり  
市民の皆さんと **ワークショップ** を開催しました！

現在、三浦市では、平成29年度から平成32年度を計画期間とする、次期総合計画のうち基本計画の策定作業を進めています。次期基本計画策定にあたっては、市民アンケート、ワークショップ及びパブリックコメントにより、積極的に市民の皆さんからのご意見をいただく機会を設けることとしています。このうち、市民アンケートについては、昨年の10月に策定しました「三浦市人口ビジョン 三浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定の経過で7月に実施した市民アンケート結果を今回の総合計画策定にも活用することとしています。

現総合計画では、市役所と市民が車の両輪としてそれぞれの役割を果たしながら協働してまちづくりを進めていくこととされており、ワークショップでは、「市民によるまちづくり」の視点から市民の皆さんにご意見をいただき、総合計画で取り組む施策などについて検討するものです。

全部で3回という限られた時間ではありましたが、参加された市民の皆さんやトライアルステイ<sup>(※)</sup>に参加された方から貴重なご意見をいただきました。<sup>(※)</sup> 三浦市で実施しているお試し居住事業



◆ ワークショップ実施

回	日時（13:00～16:00）	場所	テーマ
第1回	平成28年1月23日(土)	潮風アリーナ	共通テーマ【移住促進】
第2回	平成28年2月6日(土)	南下浦市民センター	共通テーマ【観光】 個別テーマ【教育】【健康】【高齢】
第3回	平成28年2月21日(日)	潮風アリーナ	共通テーマ【市民活動】 個別テーマ【空き家】【ごみ】【災害】

討論は3つのグループに分かれて行いました。

◆ 主ないただいた意見

**テーマ1【移住促進】** 三浦市への移住を促進するために提案するライフスタイル（みうらスタイル）とは

- ♪ 三浦の魅力は必要条件であっても十分条件にはならない
- ♪ 地元定着の条件は、強い意思を持ち自ら環境を作り出せること
- ♪ よそ者を受け入れる「地元の人の意識改革」は市民の役割
- ♪ 移住促進に有効なトライアルステイ、求められる空き家情報、創作しやすい場所
- ♪ 求められる、移住者と地元住民をつなげるしくみ
- ♪ 市民が力を発揮できるサポートをするのが行政の役割
- ♪ 都市を目指さない三浦を目指す

**テーマ2【観光】** 「遊びに行ってみたい！」と思える三浦市の魅力とは

- ♪ 子どもから大人までライフスタイルにあった遊び場がある
- ♪ 地元の販売意欲の活性化が必要
- ♪ 市民協働で情報発信のデザイン・方法を考える
- ♪ 都心に近いのに田舎が味わえる
- ♪ ネットでは得られない情報、口コミが決め手

**テーマ3【市民活動】**（仮称）市民交流拠点で文化活動が活発に行われるためには(市民交流センターの利用を中心として)

- ♪ 子どもや女性が利用しやすい形が望ましい
- ♪ 気軽に立ち寄れる場所
- ♪ 市民による運営母体を行政が支える
- ♪ お試し市民活動やお試し自主企画も
- ♪ 情報が集まる場所、情報提供者が常駐している場所

#### テーマ4【教育】 郷土三浦を愛する心を育むための特色のある教育を推進するには

- ♪ 自然や地域とのふれあいの中で子ども達が自発的・主体的に感じる事が重要
- ♪ 子ども達が安心して挑戦・実験できる環境を整える
- ♪ 大人自身が三浦の魅力を感じるにより子ども達が三浦を愛する心を持つ



#### テーマ5【健康】 市民の健康や体力を増進するには

- ♪ いつでも行けば運動できる「気軽に行ける場」が必要
- ♪ 食育・体力増進の意識改革
- ♪ 健診後のフォローアップ、高齢者の生きがいづくり

#### テーマ6【高齢】 高齢者を見守り、支え合う地域をつかっていくためには

- ♪ 隣近所のちょっとした声掛けやつながりが重要
- ♪ “防災”を契機にした危機感の共有化
- ♪ 「高齢者が活躍できる場」「高齢者が集える場」
- ♪ 地域の運営は地域で。行政への期待は個別支援（専門的支援）



#### テーマ7【空き家】 市内に所在する空き家を活用するには

- ♪ 空き家の利用ニーズは高い
- ♪ 空き家の価値は借り手が決める。価値に気づいていない所有者の意識改革が必要
- ♪ 空き家の確保が必須。そのためにも行政がサポートする「空き家バンク」の設立が急務

#### テーマ8【ごみ】 ごみの減量化・再資源化を促進するには

- ♪ 周知が足りないごみの減量化や再資源化
- ♪ 子ども目線で大人も楽しく理解できるような工夫が有効
- ♪ ごみの発生抑制（頂き物を断る勇気）：市民にできること
- ♪ ごみの発生抑制（包装容器の工夫）：事業者ができること
- ♪ 教育・情報発信・ごみ減量へのインセンティブ付与：市にできること



#### テーマ9【災害】 災害に備えて地域における自助共助意識を向上するには

- ♪ 子どもの頃からの防災教育が重要
- ♪ 災害への備えの実態を把握することが必要
- ♪ 災害時に役立つ体験を楽しみながら行う：区の防災訓練、避難所訓練
- ♪ 役所を頼らない体制づくり：近隣同士の助け合い

#### ◆ ワークショップを終えて

今回のワークショップには、総勢 20 名の方が参加してくださいました。コワーキングスペースを運営している方、観光ボランティアをしている方、骨董市を開いている方、東京までお勤めの方、トライアルステイに参加した小さいお子さんを抱っこしたママ、退職して三浦に移住した方、三浦で生まれ育った農家の方や漁師の方など、皆さんの三浦市に対する熱い思いと頼もしいエネルギーを感じ、素晴らしいアイデアや貴重な意見をいただきました。

三浦ならではの美しい自然や温暖な気候、美しい景観、美味しい特産物以上に、市民の皆さんひとりひとりが三浦の貴重な財産だと感じました。これからも市民の皆さんと一っしょに三浦を盛り上げていきたいと思っております。参加された皆さん、どうもありがとうございました！